

様式1 (自己評価及び学校関係者評価)

令和6年度 自己評価結果 及び 学校関係者評価結果報告書

学校教育目標

船橋市立市場小学校

夢に向かう 心豊かな子 【めざす子供像】 ・広く深く学ぶ子 ・思いやりのある子 ・たくましく生きる子

校長 生井 敏昭

<学校関係者評価委員会等の構成員>

・該当する欄すべてに人数を記入してください。(「その他」の欄に記入する場合は、具体的に記述してください)

	保護者	地域住民 (保護者除く)	青少年健全育成 関係団体の関係者	接続する 学校の教職員	その他	合計
学校運営協議会委員	1	2	4		1(校長)	8
その他						

<公表の方法>

公表している学校ホームページのURL

<https://www.city.funabashi.lg.jp/gakkou/0001/ichiba-e/index.html>

※該当する欄すべてに○印を記入してください。(「その他」の欄に記載する場合は、具体的に記述してください) ※ホームページでの公表は必須です

	学校だより	学校のホームページ	その他
自己評価	○	○	
学校関係者評価	○	○	

<学校評価に基づく学校運営への改善>

※前年度の学校評価に基づく今年度の学校運営の改善について、該当するところに○印をつけ、その理由を成果と課題の両面からお答えください

よく改善できた	まあまあ改善できた	あまり改善できなかった	ほとんど改善できなかった
○			
<理由> 保護者アンケートから高い評価が得られていて、学校の取り組んでいることが成果に結びついている。 特に「いじめのない学校づくり」では9ポイント以上の上昇が見られ、子どもたちが安心して登校できる学校づくりに取り組んでいた。			

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育目標	(1)学校・学年・学級経営の充実 (2)学習指導の充実 (3)美しい教育環境の整備・充実 (4)生徒指導、特別支援教育の充実・推進 (5)心の健康と体力の増進、安全指導の強化 (6)開かれた学校の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で工夫した授業を創造し、学習意欲の高まりがみられるか。また、校内研修によりICT機器の活用した情報収集の方法が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、誰にとっても分かりやすいユニバーサルデザインの授業を心がけた。また校内研究の領域を「情報」とし、「主体的に学ぶ」、「自分の考えを持つことができる」ことに重点を置き、タブレット端末の活用した情報収集能力の向上に向け、教員が効果的な活用場面や方法を指導することで、児童の能力の向上がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 若年層研修の充実を図る。また、「わかる授業」の創造に向け授業の質的な向上を全職員で目指していく。 「体力ふなばしナンバーワン！」への取組をさらに拡大させたり、正課時体育の時間を充実させたりすることで、自ら進んで運動に親しむ児童を育成する。 学校と家庭・地域がより連携し、児童の生活習慣を徹底して身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営は学校だけでなく、学校・家庭・地域と協力して行っていく。 保護者へのアンケートからも目指す児童像に関する項目は肯定的評価が高く、保護者の理解が得られている。 全体的な評価が高い中で、「たくましく生きる子」が低く感じるが、体を動かすことが苦手な子もいると思われるので、楽しみながら体づくりを行なってほしい。 今後も学校の取り組みをわかりやすく周知していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで考え、表現できる児童の育成を目指し、「わかる授業」の実践や確かな学力の定着を目指した授業を引き続き行っていく。 小規模校であるアットホームな雰囲気を大切に、児童同士や児童と教職員との関わりを通して思いやりの心を育てていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間や子供主体の活動を多く創出し、児童一人一人の思いやりの心が育っている。 	<ul style="list-style-type: none"> どのクラスも落ち着いて学校生活を送っている。地域の方や保護者への挨拶が良いという評価をいただいている。児童主体の挨拶運動もおこなっている。 児童会主体で「いじめゼロ宣言」集会を複数回行い、いじめのない学校づくりを目指している。 				
	<ul style="list-style-type: none"> 健康に留意し、休み時間等、外遊びの時間が確保され安全に留意しながら体力づくりに取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上に向けて、体育主任を中心に「体力ふなばしナンバーワン！」に年間を通して取り組んでいる。 市の各種体育大会に向け、朝の練習に取り組んでいる。大会参加者だけでなく、体力向上のために体を動かしたい子供たちも多く参加していた。 				

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育課程・学習指導	<p>・豊かな学びで一人一人の夢を育てる教育課程を編成し、推進していく。また、確かな学力を育成するために、授業改善、指導過程の工夫を行う。</p>	<p>・各教科の学習や様々な体験学習を通して豊かな心と学習意欲が高まっている。</p>	<p>・体験学習や外部講師、企業や農家、歯医者による出前授業の活用を推進することによって、児童の興味・関心を高め、学習内容をより効果的に身につける工夫や努力をすることができた。</p> <p>・特に今年度は40周年を迎える年であったため、学芸的行事(オーケストラ鑑賞会、和楽器演奏と音読劇など)を多く実施したり、地域学習(学区探検、海老川散策など)を取り入れたりしながら、体験学習の充実を図った。</p>	<p>・葛南スタイルの授業を進め主体的に学習に取り組める「わかる授業」の実践に努めていく。</p> <p>「教える授業」から「学ぶ授業」へ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)見出す (2)自分で取り組む (3)広げ深める (4)まとめあげる 	<p>・五感で学ぶ体験活動は今後も継続して行っていく。</p> <p>・保護者アンケートより英語学習への評価がやや低い。子どもたちが楽しんで学習している実態をより保護者へ伝えていく。</p>	<p>・体験活動や芸術・文化に触れる活動を教科の学習と関連付けて年間計画に位置付けて実施し、学習の充実を図る。</p> <p>・船橋の教育2020にある「ふるさと船橋」地域学習を大切に扱っていく。</p> <p>・個別の指導計画や個別の教育支援計画をより効果的に活用していく。個に応じた指導を行うことができるように教職員での共通理解を図る場を十分に活用していく。</p>
		<p>・個に応じたきめ細かな指導を徹底し、思考力の育成が図られている。</p>	<p>・学習過程を明確にするために資料を作成し、見直しをもって学習に取り組むようにした。特別な支援が必要な児童の個に応じた指導、個別指導に積極的に取り組み、一定の成果を得た。</p>	<p>・個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用し、より効果的な個々に応じた指導を模索する。</p> <p>・今年度、関係機関(総合教育センター特別支援班、放課後デイサービス)に来校・授業参観を依頼した。今後も、児童の実態把握、支援の手立てについて協議を図り対応していく。</p>		
		<p>・「教育課程特例に基づく小学校1、2年生の英語教育」により、英語学習への興味・関心が高まった。</p>	<p>・担任とALTとティームティーチングによる学習活動を通して、楽しく英語に触れることができ、外国語の音声やリズムに慣れ親しむことができた。</p>			

組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が充実した学校生活を送れるように、学校運営、学級経営に関して明確かつ厳正な運営、責任体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌を整理し、教職員が自分の力を発揮できる校内体制が確立できた。 ・教職員は、通知文を理解し服務を厳正に行っているか。不祥事根絶に向け学校全体で取り組んでいる。 ・個人情報の管理を徹底して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の減少に伴い、一部の職員の校務分掌に偏りが生じた。業務改善の視点からも、より均衡が図れるような分掌割り振りが課題である。 ・職員会議、打ち合わせなどで都度、事例を示し、不祥事根絶についての意識向上を図ることができた。 ・動画研修においては、視聴後の意見交換で互いに声を掛け合いながら職務に当たっていかこうとする組織風土が醸成された。 ・情報管理「4つの確認」「4つの約束」を周知し施錠して保管するなど情報管理を徹底した。また、個人情報持ち出す場合は持ち出し簿への記載を徹底した。職員による生徒のメールアドレス等の収集記録簿により、個人情報の管理を徹底した。船橋市教育委員会による教育情報セキュリティ外部監査においては、管理方法に対し、高評価を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が行った自己評価に基づき教職員の意見を反映させながら、学校運営を推進していく。 ・校務分掌については、若年層にも積極的な割り振りを行う。また、分掌の体制の見直しを行い、職員数に合った校務分掌としていきたい。 ・個人情報校外へ持ち出すときには管理職に確認することを徹底し、情報管理への意識が図られた。今後は、情報セキュリティ等に関する意識をより高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた職員の人数の中、職員数にあった校務分掌割り振りを行っていく。 ・働き方改革の観点からも働きやすい職場環境づくりを進める。 ・情報セキュリティの扱いについては、現在徹底している内容を、厳格に遵守していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の規模に合わせた体制に変えていき、校務分掌は偏りのないように、職員の得意な分野や年齢構成を鑑みながら十分配慮していく。 ・外部監査で評価を受けた情報セキュリティの扱いを今後も徹底していく。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解を深め、校内の生徒指導体制を確立する。 ・基本的な生活習慣を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動等への生徒指導体制が整備され機能しているか。教育相談体制が整備され、機能している。 ・いじめを早期に発見し、早期対応が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会では共通理解を図り組織が機能している。また、個別に対応が必要な児童については、臨時生徒指導部会やケース会議を行い、組織として対応に当たった。 ・問題行動やいじめの早期発見とその後の経過観察を徹底した。 ・学校生活アンケートを定期的に行い、担任が児童から聴き取りを行う中で、早期対応することができた。 ・自転車の乗り方等に課題が残った。学年・学級ごとに都度指導しているが、家庭・地域との連携を強化していく。 ・教室開設に伴い、スクールアシスタントが2名配置され、さざんかルームを利用したい児童にとって、安心して過ごせる場とすることができた。 ・学習机だけでなく、相談スペースやくつろげるスペース(マット敷)を用意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関しての組織は今年度もよく機能していた。特に、案件ごとに体制を見直すことで、指導の徹底や継続的な支援につなげることができた。今後も生徒指導担当を中心に組織として取り組み、問題の早期解決に努めていく。 ・家庭や地域との連携をさらに強化するため、学校からの情報の提供をより積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関して、保護者アンケートで「いじめのない学校づくり」では9ポイント以上の上昇が見られ、子どもたちが安心して登校できる学校づくりに取り組んでいた。今後も学校でのよい取り組みを保護者へも伝えていく。 ・基本的な生活習慣や交通安全は、家庭で育成する。学校は必要な情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的な生活アンケートや児童主体のいじめを考える機会をもつことでいじめ対策の強化を行い、取り組みを積極的に地域、保護者へ伝えていく。 ・家庭や地域と一緒に問題解決を図れるようにしていく。

安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全計画に基づいた安全管理と危機管理体制の確立および児童の危機対応能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検が確実に行われ、安全な学校環境が整備されている。 災害時、不測の事態を想定した適切な指導や避難訓練を行っている。 危機管理マニュアルが活用され児童は危機対応能力を身に付けている。 安全に関して家庭、地域、関係機関との連携を図り、適切に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月安全点検日を設け、全職員で協力し校舎内外の安全点検ができた。 教育委員会の関係部署と連携を取りながら施設修繕を行ってきた。 天候不良による延期もあったが年間計画に位置付けた避難訓練を行うことができた。不測の事態への危機意識が高められた。 危機管理マニュアルをまとめ、校舎内に掲示している。大切な「おはしも」「いかにおすし」などの約束事を児童に定着させるよう努めた。 保護者、地域がスクールガードとして登下校の安全指導を行ってくれている。定期的に、校長が登校指導をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各担当者による毎月の点検、安全主任による報告内容の確認が適切に行われたので継続していく。 危機管理マニュアルについて年度当初に全職員で確認し改定も行う。 児童の安全について保護者や地域に啓発し、安全確保に協力を得られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内設備に関しては、施設修繕をよく行っていた。少ない職員で修繕・管理していた。 交通安全対策は、引き続きスクールガード、保護者の立哨活動を行っていく。特に自転車の乗り方やヘルメット着用に関して啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は定期的な避難訓練に追加して防犯ブザー点検も行い、不審者対応への意識づくりを行った。今後も継続していく。 児童の安全について課題や家庭・地域へお願いしたいことは、学校だより等を利用し、保護者や地域に啓発し、安全確保に協力を得られるようにしていく。
保健管理	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画に基づいて児童の健康管理と心のケアの体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画に基づいて、児童の健康管理が行われている。 児童の病気やけがなど適切な処置を行い、家庭へ速やかに連絡している。 食育に関する指導を計画的に行うことができた。 児童の悩みを把握し、心のケアを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画に基づいて、健康観察をもとに子供たちの健康管理を行った。ICTを活用して、各学級ごとの欠席状況をデータ管理するようにした。 児童が病気やけがをした際に速やかに家庭へ連絡し、病気、けがの状況を伝えることができた。特に首から上のけがは必ず管理職に報告があがっていた。 栄養教諭が積極的に複数の学年、学級で授業を行い、食育を推進することができた。 児童理解に努め、変化を見逃さず担任が声かけをすることができた。心配な児童には管理職が進んで対応し、組織的な対応となった。 スクールカウンセラーが教室での児童の様子を見て回ったり、担任との話し合いをしたり 	<ul style="list-style-type: none"> 担任と養護教諭とで健康管理について学年に応じた指導を年間計画に位置づけ実施していく。 アレルギー対応について、連絡票の活用により一層の統一と危機管理意識の向上を図る。 児童が担任だけでなく、他の教職員にも悩み事を話せるような体制づくりに努める。 スクールカウンセラーの活用を活発にし、保護者のみならず児童にとっても相談しやすい環境作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も食育を大切にしたい。食を通して、心と体を育てていく。現在行っている学習アプリを活用した給食時の食育活動はとても良い。 養護教諭や栄養教諭が授業に関わることで、命や成長に係る指導に専門性が加わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭を中心として、学校全体で食育の推進をより進めていく。次年度も個別的な相談指導に取り組んでいく。 養護教諭による保健指導を年間計画を作成し、学年に応じて実施していく。 全職員で全児童を育てるをモットーに今後もアットホームであたたかな学校づくりを目指していく。

研修	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質、指導力の向上をめざし、体系的に研究、研修を進める。 ・教育課程の工夫改善を図り、教職員が教材研究するための時間の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修は学校の教育課題に即したものであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用等学校の教育課題に沿った研修が行われ、有意義であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究については、「情報」研究を3年行い、今年度は「情報収集」に重きをおいて研修を行ってきた。次年度は、より全職員が見通しをもてるような研究推進となるよう検討していく。 ・若年層研修は、より充実した研修を計画するようにする。今後は指導力・実践力を高めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用は低学年から活用できており、指導が行き届いている。 ・学習内容に応じてICT機器を使う場面と使わない場面を教職員が効果的に使い分けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの実態を捉え、能力や技量を高めるために、今後も研修・研究を進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域の期待や要望に応える連携体制をつくる。 ・地域中学校区を中心とした学校間の連携を強化していく。 ・学校運営協議会委員や関係機関との連携体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域への情報提供を適切に行っている。 ・地域、PTAとの連携は図られている。 ・保護者や地域の方から寄せられた要望に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍があげ、地域の行事が再開されてきた。子供たちは市や公民館イベント等の地域の行事への参加が増えてきている。特に本校おやじの会イベントには多くの子供たちや保護者が参加している。 ・ホームページ、学校メールなどを活用して学校の様子を伝えるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学校が目指していることや教育活動を保護者や地域の方に説明したり、学校の情報を発信したりしていく。 ・市民の会や地域の行事が再開され、地域や保護者との連携を深める機会が得られるので、意見をいただき学校運営に反映していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場町自治会の家庭に学校だよりの回覧を行った。市場小に子供を通わせていない家庭にも学校の取り組みや地域への啓発をすることができ、学校への理解が深まった。 ・学校を通して、地域イベントや公民館事業を周知することで、より連携が図れている。 ・宮本中学校区の他小学校との関りや交流がもてるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校だよりにより、児童の様子や学校の姿勢を評価していただけたので、来年度も積極的に情報発信していく。 ・市場町自治会家庭への学校だよりを継続していく。 ・安全に関する啓発をより、家庭・地域へ行っていく。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から学校運営協議会委員や関係機関への情報提供を適切に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子供たちの健全な育成のために、学校間、地域、家庭との連携が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区の小中学校との連携した取り組みを行うことができ、学校行事の持ち方の共通理解を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを市場町自治会家庭への回覧を行った。 ・行事(運動会、授業参観等)への招待する機会を増やした。 ・学校運営協議会を年3回開催し、学校運営に助言をいただいた。 		

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による特別な教育支援を必要とする子供への理解と指導、支援を特別支援コーディネーターを核としての協力体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の特別な教育支援を必要とする子供への支援体制が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーター、生徒指導主任と管理職を中心に支援体制を計画的に組んだ。支援の必要な児童の個別のファイル作成を継続している。それにより、引継ぎ等を円滑に行うことができた。 自閉症情緒障害特別支援学級「けやき学級」について、校内で連携を図り、支援級と交流学級との学習を通して、実態に合わせた支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、特別支援部会と生徒指導部会を分けて行ったが、職員の評価からは取り組みやすかったと好評価であったので、次年度も続けたい。 個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成して、保護者との連携を図る。また、計画の策定だけでなく、その活用について職員の理解を深め、手順を確認することが必要である。職員の研修を計画的に進める。 関係機関、スクールカウンセラーとの連携をより一層深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「けやき学級」の児童数が年々増加している。インクルーシブ教育を取り入れた、学びの場の提供ができています。 支援員の増員を希望したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な子ども全てに渡って、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成し、保護者と定期的に連絡を取りながら、教育支援を行っていく。 引き続き関係機関との連携を一層深めていく。 校内の連携を図り、支援級と交流学級との学習の充実に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育について必要な子供の個別の指導計画が作成され、実践されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画や個別の教育支援計画を策定することができた。 支援が必要な子供について、保護者の理解を得て、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、児童支援にあたることができた。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、医療・福祉などの関係機関との連携を適切に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関による経過観察を行っている児童について、必要な対応について職員の共通理解を図ることができた。 			

施設設備・環境	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の有効活用と教育環境の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境や生活環境を向上させるための整備を計画的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した施設・設備の修繕など、昨年度より環境を向上させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備については、日々の安全点検に努め事故を未然に防いでいく。 修繕可能なものは早急に対応する。学校でできないものについては、引き続き市教委へ要望し、修理、改善を依頼する。 また、校舎老朽化に伴う改善箇所については、短期的、長期的なものに分類し、計画的に改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設修繕が行われ、学校環境が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備については、日々の安全点検に努める。学校で修繕できないものについては、市教委へ要望し、修理、改善を依頼する。 空き教室が増え、着替えや作品の保管等有効活用が図れた。今後、整理整頓を心がけたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の使用は、留意事項を心得て有効に使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 空教室が多くあるが、室内を整備し、作品展示室や更衣室として、有効に活用することができた。 				
	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の点検を適切に行い、改善への努力を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検を確実に実施し、修繕が必要な箇所については、優先順位をつけて対応した。 今年度、換気扇・照明等の修繕が多かった。安全に学校生活が送れるように、業者や施設課と連絡を取り、早めの対応を心がけ 				